

みんなの力で「森づくり」

20年度は351㍿を整備

農林振興課 林業振興係 ☎0824-73-1227

広島県は、平成19年4月に納税者一人当たり年間500円の「森づくり県民税」を創設し、この税を財源として「ひろしまの森づくり事業」をスタートしました。

この事業は、手入れが十分にされていない人工林や里山林を整備することで、土砂災害や地球温暖化の防止、水源の涵養などの「森林の役割」を最大限に発揮させることを目的としています。

昨年度、庄原市では「森づくり県民税」を財源に約351㍿の森林を整備。これは、広島カーブの新本拠地「マツダスタジアム」(建築面積約2.3㍿)152個分もの広大な面積になります。着実に進む「庄原市の森づくり」を紹介します。



平成20年度 庄原市森づくり事業

●人工林対策 事業面積301.68㍿
事業費1億2053万円

15年以上手入れがされていないスギ・ヒノキの人工林の間伐などに対して支援しました。

補助率 個人負担1万円/㍿

●里山林対策 事業面積50.16㍿
事業費6341万円

災害防止、多様な生物の保全、鳥獣被害防止などを旨とし、マツや広葉樹などの整備や森林体験活動を支援しました。

補助率 10/10以内

事例① 松くい虫被害跡地整備 〔高地区〕

赤 松林が多く、かつては緑あふれる松林が広がっていた庄原地域の高地区。現在は松くい虫被害などによる松枯れが続き、山全体が茶色になっています。

こうした状況から、住民自ら松林の保護に取り組みようと、松くい虫被害自主防除組織を結成。長年、保護活動を続けてきましたが、自主活動では間に合わないほど松枯れが進行し、今回、「庄原市森づくり事業」で枯れた松の除伐事業に取り組みました。

昨年度実施した個所は、高自治振興区が戦国時代の城跡などを探訪できるように整備を進めている区域で、川西町の安広彰人さんは「これからも地域のシンボル・財産として、里山の保全を継続していきたい」と話しています。



枯れた松を伐採

事例② バッファゾーン整備 〔東城町小串地区〕

小 串地区では、長年イノシシをはじめとする鳥獣被害に悩まされ、電気柵などの防除対策を行ってきたが、あまり効果が見られませんでした。

地元住民で協議を重ね、農作物被害を防止するバッファゾーン整備を、集落を挙げて取り組みました。

小串森林施業組合の坂部裕樹さんは「イノシシによる水稲・野菜などへの被害が減少したほか、地域が明るくなったとみんな喜んでいて。これからは、この美しい景観の維持に努めていきたい」と意気込んでいます。



里山に生い茂る低木を伐採

事例③ 竹林繁茂防止事業 〔口和町湯木地区〕

山 がきれいになって見晴らしが良くなった」と喜ぶ口和町の井上義勝さん。雪害などで荒れた裏山の竹林を「庄原市森づくり事業」で伐採しました。

昨年度、口和町では7カ所の竹林を整備。いずれも個人で伐採することが難しい状況でした。

井上さんは「竹林内にお堂があり、以前は暗く見えにくい状況でしたが、整備後は明るくなり、お地藏様も喜んでいて。今後は長年放置するのではなく、その都度整備して荒れないよう管理したい」と話しています。



荒れた竹林をきれいに伐採

事例④ 放置林整備事業 〔総領町田総地区〕

節 分草が自生できる環境を広げようと、田総の里スポーツ公園に隣接する山裾一帯を整備。低木の伐採や下草刈りを行いました。

絶滅が危惧される節分草は、人の手を加え下草を刈らないと咲くことができない花です。

NPO法人節分草保存会理事長の中谷昭夫さんは「今回整備した場所は、現在公開している節分草公開地の間にあり、この一帯が総領一の公開地となるよう、これからも山裾の環境維持に努力していきたい」と意気込んでいます。



山裾一帯を整備

地域ぐるみの森づくりに期待

農林振興課 課長 平岡 章吾

森づくりへの関心が高まる中で、多くの森林所有者や団体から、庄原市森づくり事業計画の2倍〜3倍の要望が寄せられています。市では、道路脇で成果が見えやすい個所など、基本方針に基づいて選定し、本年度も約260㍿の森林を整備します。

「負担が少なく森林を整備してもらえ」などの理由で、年々要望が増えています。大切な事業を実施した後です。森林がきれいになったことをきっかけに、地域の里山環境に関心を持ち、地域ぐるみで森づくりに取り組んでもらいたいと思います。

